

タカラコラボラボ 第6回・第1期第6回TaCoLAB(宝塚市協働のまちづくり推進会議) 議事録	
開催日時	令和6年(2024年)6月4日(火)18:30~
開催場所	第2庁舎 会議室A・B
次 第	1 開会 2 議事 (1) ロゴマークに使用するまちキョンについて (2) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について 3 その他 (1) 広報たからづか10月号(予定) 特集ページの掲載内容についての情報提供依頼 4 閉会
出席委員	田中会長、加藤委員、遠座委員、永崎委員、松村委員、大関委員、上田委員、岡田委員、橋之爪委員
開催形態	公開(傍聴人2名)

1 開会

事務局から、本日の出席者は9名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則(以下「規則」という)第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は2名であることを報告した。

2 議事

(1) ロゴマークに使用するまちキョンについて

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

ア 私は案1の方がいいと思う。案2は手がいいねをしているのかよくわからない。案1の方は表情があるのでいいと思う。

イ 2つのデザインがあってもいいと思うが、案2の方はア委員がおっしゃっていた通り、いいねをしているのかよくわからない。案1の手を案2にも使い、2つとも使えるといいと思う。

ウ 私が最初に見て思ったのが、案1はよく見るが案2はあまり見ない。しかし、よく見ないといいねとしているのかわからない。案2の方の手を強調して、イ委員がおっしゃった通り、案2の手を案1のものにしてどちらも使えるのがいいと思う。

エ 案1も案2もできたら両方使うということ、案2の手を案1のようにわかりやすくするというでまとまった。

(2) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施について

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

- ア 交流会の全体発表について、zoom を用いた発表はうまくいった経験があまりないので、全体発表も1階のホールの中に全員が入ることができるならば、zoom を使わないで1階のホールでした方がいいと思う。今まで何回かホールと別会場に分けて実施したことはあるけれど、どうしても音声聞こえないことがあるので改善した方がいいと思う。
- イ (事務局) この事務局案を検討する際に、2つの会場に分けて zoom でつなぐと音声聞き取りにくいという意見があった。ホールのみで実施するほうが移動時間も少なくなるため実施しやすいが、人数のことを考えて今回は2つの会場を zoom でつなぐという案にした。この人数規模で実施すると、席が近く、グループでの会話が聞き取りにくいという状況が想定される。椅子だけのレイアウトも検討したが、机でメモをしながらの方が話しやすいと思い、机も配置するレイアウトで検討した。会場レイアウトも含めてご意見をいただければと思う。
- ウ 先ほどの発言で、少し説明が足りていなかった。交流会は事務局がおっしゃったように2つの会場に分けた方がいいと思う。やはり席が近いとどうしても隣の声が聞こえてしまう。だから、交流会は2つの会場に分ける。そして、最後の全体発表の時だけ、もう一度集まっていた方がいいと思う。
- エ 資料3にあるように、本来の目的は「まちづくり活動に関心はあるが、やり方・関わり方がわからない人が、このイベントに参加してやり方・関わり方を知る」が目的であるため、年に何回やるのか。年に1回だと忘れ去られてしまう。がっつり活動をしている団体は伝統もあれば、ルールも決まっているので、その団体の話を聞いてもやり方がわからないから大きなシステムを組めないところが多いと思う。目的は、イベントに参加した人が今後プレイヤーになってもらうことだから、イベントの目的を忘れないようにしないといけない。年間通して、数回開催しないと参加するチャンスがなくなってしまう。例えば、市制70周年記念補助金の採択団体の中で、新規事業として実施した団体が、補助金をもらえるならやってみようという動機があるから、そういう団体がどういう動機で活動を始めて、今後続けるつもりなのか、1回きりの活動なのかということも含めて、新規事業を実施した団体がイベントに参加して、自分たちで今後も活動をやってみようという気持ちになってもらわないといけない。数回に分けて実施しないとイベントを開催しただけになってしまう気がする。
- オ (事務局) まずは今年度に1回は開催したいというところからスタートしているので、最初の想定は年1回という想定だったが、エ委員のおっしゃるとおり、その機会を逃すと参加する機会を失うということになると思う。皆様のご意見を聞きながらになるが、例えばここまで内容をがっつり詰め込まなくても、もう少しコンパクトな内容にして年2回やるようなやり方もいいと思うし、年1回、とりあえず今年度は気合いをいれて実施して、来年度はもう少しテーマとやり方をマイナーチェンジしながら進めていくやり方もありだと思うので、そこは柔軟に皆さんの意見を聞きながら回数等も設定したいと思う。

カ 以前に中央公民館でまちづくりワークショップをした際もこの事務局案と同じような形式だったと思う。最初に講師の方の話があって、グループに分かれて、初対面でテーマに沿って話をした。ワークショップ終了後、ひとつのテーブルはそのあとにランチに行ったという話やワークショップは今後も続くのかと聞いていらっしゃる方がいるという話を聞いた。この交流会に参加する目的は皆さん全然違う。何の目的で参加したかも分からないから、グループごとに自己紹介をするのだろうと思うが、そのグループも最初から決められていて、参加するグループを自分で選ぶことはできなくて、この人と話したいという思いがあっても、この時間はグループで話してくださいという形式になっている。なんとなく参加したという人にはいいと思うが、目的が明確な人にとってはとても窮屈に感じたり、物足りないと思う場合がある。今回は地域活動が気になる、関わり方が知りたいという少なからずそういう目的で参加してくれる人を集めたいと思うので、どちらかというところそこにフォーカスした方がいいと思う。運営側でグループを決めるというよりかは、グループは組まずに、ざっくりばらんな形式が良いのではないかなと思う。ちなみに、食べ物や飲み物を準備するのはどうか。

キ (事務局) 公民館の確認は必要だが、皆さんが持ち寄ってくださるならお茶菓子は多分大丈夫だと思う。

ク 先ほどエ委員がおっしゃったように、初回からたくさんの人を集めてするのであれば、事例発表を聞いて、グループは組まずに話したいと思う人と話をする。その後、繋がり場の場づくりを用意するということまで考えた方がいいと思う。初回から参加者をたくさん募って、地域活動をされている方との出会いの場をつくるという風にするか、少人数でターゲットを絞って開催するのがいいのか、どちらがいいだろうかなと思う。

ケ 交流の場に関しては、ア委員がおっしゃったように、2つの会場に分けると、小さな会場の方々が疎外感を感じたり、一体感がなくなってしまって盛り上がり欠けてしまう。少し会場がうるさいくらいでも、一会場に皆さんが集まった方がいいと思う。また、細かい話になるが、7人1グループだと少し多い気がするため、1グループ5人くらいまでだと思う。以前、クールシェアスポットの説明会の際に、企業の方が作ってくださった円形のホワイトボードのようにしているものを囲んで話した。初対面であっても一体感というか、距離が近い分仲良くなる。そういうものを活用して、少人数で顔を突き合わせて話すことで、グループ内の距離が近くなり、声もそこまで大きくならないと思う。そういう工夫があってもいいのではないかなと思った。また、1回の開催に50人、公募で一般の方が20人、発表する方とTaCoLABメンバーで30人となると、初めて参加される方は緊張するし、みんな知り合いなのかと感じてしまわないかという懸念がある。10事例ぐらいの様々な事例を聞きたいと思うかもしれないが、もう少しテーマを絞って、テーマを4~5つにし、人数を少なくして数回開催する方が密な関係が築ける。また、このイベントを通して地域活動に参加するきっかけ

を掴んで、活動をしたと思った人が普段活動している活動メンバーと知り合いになる機会になるのではないかと感じた。

- コ (会長)「一体感」という言葉が出てきていて、そこが重要である。50人が集まるか分からないが、こじんまりとしてもいいのではないかという話もあったと思う。地域活動に参加したことがない人がイベントに参加して、イベントをきっかけにして地域活動に参加するというのを演出してあげるのも私たちの役割であると思う。交流会後の全体発表は一つの会場で行うという意見があった。レイアウトは事務局案のレイアウトに書き込めばいいと思う。また、飲食しながら話をするという意見があって、会場内を自由に動けるほうがいいという意見もあった。皆さんが椅子に座って、自分の席を離れづらいという雰囲気よりも、自由に動いて話ができる方がいいと思う。
- サ 私も PTA をしていた際に、何か食べながらの方が、気軽に話せるというのはよく見かけるので、少しでも食べ物があればいいと思った。先ほどケ委員もおっしゃっていたが、交流会となると身構える人が多く、私が行ってもいいのでしょうかと聞かれたことが何回もある。交流会という表現であると、事例発表は聞きたいが、交流会の前で帰ろうと思う人が出てきてしまう。でも、そういうところに行って話をしたいという人がターゲットならそれでいいと思うが、少し足を運んで雰囲気に惹かれて参加したという方にとっては30分ぐらい話をするぐらいなら行ってもいいかなと思ってもらえるぐらいの印象のほうがいいのではないかと思う。
- シ 関心はあるけれど、やり方や関わり方が分からない方に参加していただかないといけないという観点からみると、市制70周年補助金の採択団体が実施する事業のジャンルが様々である。新規事業で実施した団体の主催者が、本当に地域活動のやり方や関わり方が分かっているのか。きっかけは10万円の補助金で、今回は成功したか失敗したか分からないけれど、少し地域活動に興味を持ったという人が一番のターゲットになる。また、円形のテーブルを囲んで話す方が聞きたいことを聞きやすいかもしれない。また、新規事業を実施した団体の方がプレイヤーになっていくと思う。新規事業が一覧の中でも散見されるので、ぜひこういった方にプレイヤーになっていただきたいと思う。
- ス (事務局) 事業種別を新規事業と既存事業で分けているが、既存団体であっても事業として新規であれば新規事業としている。事業内容自体が新規の取組であれば、新規事業としているので、新規事業の中でも、団体として新規・既存は混在している。これから議論が進んで、この団体に話を聞いてみたいというところがあれば、この会議の場もしくは、市民協働推進課にご連絡いただきたい。また、TaCoLAB メンバーで小さいグループを作って、どの団体に声をかけるかというのを話し合う場を設けることもできるので、今後検討していきたいと思う。
- セ 皆さんの意見が集約されつつあるかと思うが、基本的に皆さんのご意見には賛成。これまで市民説明会は大規模にやってきたという経過があると思うが、今回

は思い切って小規模で開催することで、趣向が変わってくるので、イメージも変わると思う。また、シリーズ化とまでは言わないが、1回で終わるのではなくて、同じ形式で2・3回開催してもいいのではないかなと思う。その思いが強くなったのは、この市制70周年記念補助金の採択団体のリストを見て、70団体の中から選んで3回ぐらい開催したいと思った。毎回テーマを絞って、例えば1回目は防災、2回目は子育てのようにすると、それぞれ興味を持っている違うターゲットの方が来てもらえると思う。また、先ほど飲食の話が出ていたが、何かお菓子を皆さんに持ち寄ってもらって話ができれば、自由に動きながら違うテーブルにお菓子を配るということもできるのではないかなと思う。

ソ 先ほどから話に出ているように1回の開催で百発百中ではないと思う。だから、何回か開催しないことには、プレイヤーは増えていかないと思う。交流会については、ブースが設置されているので、いろいろな企業がしているように、ブースの前で立ち話をするというケースがよくある。例えばブースの手前にテーブルを置いて、自分が興味のある事例のブースへ行ってお茶菓子も準備して団体の方と話をする。がっつり活動されている方の事例発表も、パネルで活動を紹介してもらって、その活動に興味がある人がそのブースへ行くという形式であれば、参加者が話を聞いてみたいと思うブースへ行けると思う。交流会という形式に抵抗があるなら、逆に事例発表はなしで、ブースの前で話ができるスペースを作るというのもいいと思う。何回も開催しないとプレイヤーは増えないが、1回は開催したい。先ほどから意見としてあがっているアイデアでは、パネル展示をして、それぞれ興味のあるブースに参加する。ただ問題は、発表してもらう方がいいが、聞く人をどれぐらい集められるか、そこが工夫のしどころかなと思う。また、事前のPRがすごく大事だと思う。だから、パネルブースがある、こういう活動があるというのをPRして、活動の話を聞いてみたい人はぜひ参加してくださいという形で、参加しやすい雰囲気を作るPRしたいと思う。

タ 私も基本的に賛成で、やはり立ち話が一番やりやすく聞きやすい、話しやすい、参加しやすいと思う。だから、基本的には立ち話ができる会場というスタンスで、堅苦しそうな交流会のようなものは、とりあえずはやめておいた方がいいと思う。スモールスタートでやりながら、必要に応じて変えていけばいいと思う。参加してくれる人集めのためには、何かテーマを決めて、今回のテーマは子育て支援、次回は防災というように、そのテーマに興味のある人に来てもらいたいという発信をして参加者を集めればいいのではないかなと思う。子育て支援や防災にした場合、幾つものアプローチの仕方があると思うので、テーマごとに関心を深めていくというのがいいのではないかなと思う。

チ 自分で子育てグループのサークルを作った時に助成金があるということを知ったタイミングがあった。活動始める上で、どこに行ったら支援があるとか、市の方で助成金の案内をするブースがあるとありがたい人はもしかしたらいるのかもしれないと思う。

- ツ 子育てに関してであれば子ども家庭支援センターというような、他課との連携をしてほしいし、イベントにも来てほしいと思う。市の取り組みや、市はこんなことをしているという話も、これまで私たちも活動の中で、市の方に話をしてももらった。興味のあるテーマで活動しようと思っている方にとってはすごく刺激になると思うし、課題に対しても考えないといけないと思うのではないかと思うので、ぜひ市が考える課題といったことも聞きたいと思う。
- テ (会長) イベントに来て欲しい人に来てもらうためには、ある程度テーマを決めて、継続して開催していくと満遍なくできるという話があったと思う。
- ト 人をたくさん集めるためにはどうするかということについて、すべてのブースを子育てにしたら参加者は偏る。ツ委員がおっしゃったように、市民活動をする上での行政の協働と活動するための様々な資金援助といった内容を全部含めていくと、いくつかのブースを作る必要がある。例えば防災、子育て、交通弱者の問題。市制70周年記念補助金の採択団体の中にも防災と子育ての事業があったと思うので、あとテーマを2~3つ用意すると、関心のあるところに人は集まると思う。だから1つのテーマよりも、皆さんそれぞれが課題として思っているテーマを用意して、そのブースを1つでも作るというやり方が、参加者は幅広く集まると思う。
- ナ 市制70周年記念補助金の採択団体のリストを見ていて、話を聞いてみたい団体はあるので、市制70周年記念補助金の採択団体をメインで考えていると思うが、例えばどういう繋がりが欲しいのかといったことを聞くのもいいのではないかと思う。どんなことで困っているのかという漠然として質問をすると、やはり何を聞いたらいいか分からないと思う方もいると思うので、ある程度こちらから選択肢やアンケートを用意するのもいいと思う。例えば、子育てのテーマといっても広いし、防災の話も聞きたいという方もいると思う。テーマを大きくとらえてしまうと具体的ではなくなってしまうため、この団体の話を聞こうという感じでもいいのではないかと思う。今回はこのテーマの話を聞きましょうという会にしてもいいと思う。発表をしてくれる団体を見に来る人、話を聞きに来る人、発表してくれる人も参加者でいいと思う。それだけでも人数は確実に集められると思う。聞くだけの人は最初から聞くだけのつもりで来ていると思うので、どちらかというところ、このイベントの目的として、イベント後も継続して地域活動に参画してくれるプレイヤーづくりであるので、最初からそういう人が参加者というふうを考えておけば、声をかける人が参加者であり発表者である。
- ニ 皆様のご意見に賛同する。細かいことを言うと、何をするにしても自己紹介はやめましょう。参加者はネームプレートに所属と氏名を書いていたら誰かわかる。
- ヌ この事務局案のブースの話はいいと思う。事例発表をなくして、ブースやパネル展示で発表をしてもらうにしても発表内容等は活かしていきたい。あと、

ニ委員もおっしゃった名前。最近、まちづくり協議会に関学の学生が来てくれているが、ニックネームで参加してくれている。そうすればより親しみを感じることができる。それ以上に何か知りたいと思ったら、各々で情報交換するというやり方があると思う。

ネ（会長）まず、ブースを設けるということは決定で、ブースの前で話ができる形式がいいという話であった。また、自己紹介はやめて、ネームプレートのようなものを準備して名前が分かるようにして交流するという話であった。

ノ（事務局）たたき台として作った事務局案をもとに自由に意見を言っていて嬉しく思う。いただいた意見を基に、そこからブラッシュアップしていきたい。今日のご意見を事務局で整理して、次回まとめた資料を提示する。

3 その他

- (1) 広報たからづか10月号（予定）特集ページ（特集テーマ「あなたの力が必要です！『得意』を地域活動に活かしませんか」）の掲載内容についての情報提供依頼表記の件について、事務局より説明を行い、得意を地域活動に活かしている活動者の情報提供依頼を行った。
- (2) 委員より、地域課題の現状把握についてのアンケート回答の依頼とフードシェアリング（食品提供、配布会）活動の情報共有があった。

4 閉会

以上